



# 奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC  
（奈良県保健環境研究センター内）



● 今週の概要

■ 今週の感染症情報



（調査週）平成 24 年 第 44 週 10 月 29 日（月）～11 月 4 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	4.80	↑	↑	↑	↑↑
2	RS ウイルス感染症	0.60	→～↓	→～↓	→～↓	↓
2	水痘	0.60	↑	↑	↑	↓
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.46	→	→	→	→～↓
5	突発性発しん	0.34	→	→～↓	→～↑	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

**県北部地区概況** 報告数は100例で、前週報告の107例からやや減少。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②RSウイルス感染症、③水痘、④A群溶連菌咽頭炎、⑤突発性発しんの順。感染性胃腸炎の報告数（60例）は、やや増加。水痘の報告数（10例）も、やや増加。RSウイルス感染症の報告数（12例）は、やや減少。A群溶連菌咽頭炎の報告数（8例）も、やや減少。突発性発しんの報告数（4例）も、やや減少。また、インフルエンザ定点からの報告は、奈良市HCおよび郡山HC両管内共になかった。郡山HC管内眼科定点から、流行性角結膜炎の報告が1例あったが、奈良市HCおよび郡山HC両管内基幹定点からの報告はなかった。

（村井 記）

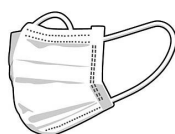
**県北部外来状況** 外来患者数はインフルエンザ等の予防接種者を除けば多くない。保育園の乳幼児を中心にRSウイルス感染症の大流行が続いている。熱と気管支炎症状が出てこない迅速検査も陽性化しにくい印象がある。感染性胃腸炎もそろそろ出てきているがまだ多くない。溶連菌咽頭炎もよくみられる。  
(矢追 記)

**県中部地区概況** 報告数は、102例から128例と増加した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、水痘、RSウイルス感染症、A群溶連菌咽頭炎・突発性発疹の順であった。感染性胃腸炎は、65例から89例と増加し、水痘は、10例から11例と増加している。眼科定点からは、葛城保健所より流行性角結膜炎2例の報告があった。基幹定点からの報告はなかった。  
(高木 記)

**県中部外来状況** 外来数は増加。軽度の感冒が主。マイコプラズマ肺炎は情報程の流行は見られず。年長児に数例程度。RSウイルス感染症がすこしずつ増加傾向か。3ヶ月児の一例は紹介入院とした。感染性胃腸炎は嘔吐を中心としたノロウイルス性と思われる例があるが、迅速ではノロ、ロタ陽性例はなかった。その他、他院で陽性と診断されたアデノ例が1例あった。  
(岡本 記)

**県南部地区概況** 報告数(第43週→第44週)は15例→22例と増加。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎(9例→19例)、②A群溶連菌咽頭炎(0例→1例)、③突発性発疹(4例→1例)、④流行性角結膜炎【眼科定点】(1例→1例)であった。  
(柳生 記)

**県南部外来状況** 予防接種を除けば外来数は余り増加していない。やはり鼻水と咳の軽い感冒が主であるが、高熱の続くものも少し増加した。感染性胃腸炎が流行し始めた。当初アデノも僅かに有ったが、今週、ノロ迅速陽性を含む、保育所や家族内感染例が急増した。軽い嘔吐に続く下痢の他、嘔吐のみ、下痢のみ、中学生で高熱、腹痛の強いものなど色々あり。キャンピロバクターもあった。手足口病が1例あり。今週、RSV感染症の家族例も認めた。  
(山本 記)



感染症情報センターホームページアドレス

[http://www.pref.nara.jp/dd\\_aspx\\_menuid-27874.htm](http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm)